

博士学位論文審査要旨

2024年7月12日

論文題目： 共感する価値創造の構築
——ナッジ理論を活用したマイノリティのフィールドワーク——

学位申請者： 中村 えい子

審査委員：

主査： 経済学研究科 教授 八木 匡

副査： 経済学研究科 教授 西岡 幹雄

副査： 経済学研究科 教授 宮本 大

要旨：

本論文では、マイノリティの社会参加の重要性を論理的に主張し、共感を基盤とした価値創造のメカニズムを探求している。経済社会から見落とされた人々がスティグマを抱え、社会参加が困難になっている状況において、主体性と自尊心を取り戻し、共感社会を築くことにより新しい価値を生み出すための方法と社会の発展をもたらすための方法を提示している。この方法において重要な役割を果たしているのが五感の活用とナッジの概念であり、本稿では教育におけるナッジ活用を実践的に適用し、その効果をケーススタディとして分析することにより、五感を活性化させる教育手法とナッジ適用における有効性と限界について議論している。

序論では、現代経済社会における孤独感や経済的不平等が共感の欠如により形成されるメカニズムを論じ、デジタル経済やグローバル化社会において重要性を増している共感に基づく価値創造が、新たな経済モデルの基盤となることを提言している。

第2章では、共感と価値創造に関する経済学説の歴史的な発展とその現代的意義について論じている。特に、アダム・スミスの同感理論の現代的意義を明確にし、競争均衡が社会的な公正性と整合的となるための条件を議論している。

第3章では、スティグマの形成メカニズムとその社会的影響について考察し、スティグマがどのようにしてマイノリティの社会参加を妨げるかをケーススタディを通じて検証し、スティグマ解消のためのナッジ理論の活用方法を提案している。

第4章では、ナッジ理論を用いて社会課題を解決するために提唱している方法論の有効性についてフィールドワークによって検証している。特に、同調性や無意識な構造支配、動機付け、ナッジ理論の習慣化に焦点を当て、フィールドワークの結果を分析し、ナッジ理論の有効性を実証している。

第5章では、五感を鮮明にする教育がスティグマ解消に与える影響についてフィールドワークによって検証している。五感と脳の関係性に関する理論的考察を行った後に、主体的な「遊び」の効果をケーススタディで検証した結果、五感教育がナッジ理論の効果を最大化する手段として有効であることを示している。

第6章では、デジタル経済と共感経済の相互作用による社会変革について考察し、デジタル化がもたらす創造性と共感の新たな経済モデルを提示し、全ての人々が自己実現を果たし、共感に基づく経済社会を構築するためのアプローチを提案している。

本論文におけるナッジとして、1) スティグマを抱えるマイノリティに対して、ポジティブなフィードバックや社会的承認を与えることで、自己肯定感や自己受容感を高める、2) 五感を刺

激する活動や教育プログラムを通じて、対象者が新しい経験や学びを通じて自己肯定感を高める、
3) デジタルプラットフォームを活用して、共感経済の中でマイノリティが活躍できる場を提供し、経済活動に参加しやすい環境を整える、等が提示されており、マイノリティが社会的・経済的に包摂されることを目指し、彼らの潜在能力を引き出し、経済活動への積極的な参加を促すための具体的な手段としての有効性が検証されている点は学術的に高く評価できる。

本論文は、行動経済学の学術的な基盤の上で、心理学、教育学、哲学といった広い領域における知見を的確に取り入れた学際的な研究となっており、学術的な価値が高いものと判断できる。

よって本論文は、博士（経済学）（同志社大学）の学位を授与するにふさわしいものであると認められる。

総合試験結果の要旨

2024年7月12日

論文題目： 共感する価値創造の構築
——ナッジ理論を活用したマイノリティのフィールドワーク——

学位申請者： 中村 えい子

審査委員：

主査： 経済学研究科 教授 八木 匡

副査： 経済学研究科 教授 西岡 幹雄

副査： 経済学研究科 教授 宮本 大

要 旨：

2024年7月4日17時00分から18時40分まで、良心館RY410教室にて学位申請者に対する総合試験を行った。申請者は本論文に関して体系的且つ論理的な報告を行った。上記審査委員からの質疑に対しても、的確な回答をもって本論文の学術的価値を示し、同時に、社会科学的研究方法に関しても、十分な学識と実践力を有していることを証明した。

学位申請者は、本論文を執筆するために数多くの英文の文献をレビューしていることから、博士学位にふさわしい英語能力を持つと判断する。以上のことから、本学位申請者の専門分野に関する学力ならびに語学力は十分なものであると認める。

よって、総合試験の結果は合格であると認める。

博士學位論文要旨

Abstract of Doctoral Dissertation

論文題目： 共感する価値創造の構築

Title of Doctoral Dissertation —ナッジ理論を活用したマイノリティのフィールドワーク—

氏名： 中村 えい子

Name

要旨：

Abstract

デジタル化の進展により、他者との共感が重要な価値観として認識されるようになった。時代の変化とともに、貨幣の機能や意味も大きく変化し、貨幣の所有よりも、必要な時に利用できる柔軟性が社会の価値観を変容させ、経済競争力は共感に根ざした創造性を求める方向へと向かいつつある。また、グローバル化により国境を越えた相互の関係性が強まり、経済活動の柔軟性と予見性がますます要求されている。これにより、多様なサービスやニーズに応えることが、生産性を維持する上で不可欠な要素となっている。この変化に伴い、これまで未活用であったマイノリティの創造性が再評価され、新たな価値やイノベーションが生まれ、社会全体が豊かになり経済活動が促進されることが期待される。そして、マイノリティの声や視点が社会的な決定や政策立案に反映され、全ての人々にとって包摂的なものになり、社会全体が明るくなり、様々な人々が意見や価値観を自由に表現することが尊重されることになる。

例えば、異なるバックグラウンドや経験を持つマイノリティの人々が集まると、創造性やイノベーションを促進し、新しい視点やアイデアが生まれ、新しい問題解決や革新的なアプローチが生まれ、社会全体の発展を促進する。また、多様な人々のニーズや要求に応えることができる多様な製品やサービスが提供され、市場が拡大し、経済活動が活発化する。さらに、異なる文化や背景を持つ人々が協力し、共通の目標に向かって取り組むことで、相互理解と共感が促進され、より広い視野を持つことができ、社会の結束力を強め社会の分断や対立が減少する。よって、多様性と共感とは社会において革新と成長を促進し、意見や価値観を自由に表現することが尊重され、全ての人々が自己実現と包括的で持続可能な経済社会の未来を築くための重要な要素となる。このアプローチによって、新たな市場が生み出され、潜在的な需要が開拓され共感に基づく経済社会の実現が可能になる。

しかし、多様性と共感が求められる経済社会において、我々は社会がどのような方向へ進むべきかについて共通の理解を有しておらず、これが日常生活や経済社会への参加に制限を生み出し、スティグマを抱える人々を増やし、労働力の活性化を妨げ、経済活動の停滞を引き起こしている。この問題の根本的な原因は、特定の属性や意見が排除され、主流の価値観に適合しない場合など、本質的には個人そのものではなく、事物や制度、習慣、思考パターンなどの社会的な障壁との相互作用により、自覚的あるいは無自覚的に差別や排除、制約を生む社会的な意識の存在である。これによりマイノリティに対する差別を助長し、その結果、排除や制限を受け内在化された偏見や自己制限により、スティグマを形成し、目標に向けた行動を制約し、社会的孤立に陥る。このように、社会との関係性が社会的な壁と相互作用し、二次的な障害を引き起こし、組織や産業全体の経済的発展を阻害し、経済社会全体の繁栄に貢献していない現状がある。

また、マイノリティに対する偏見や差別、制約により、適切なサポートやケア、教育や訓練を受けられず、その結果、マイノリティが自立し豊かな生活を送れる社会が狭められている。さらに、マイノリティ自身の行動に制限を与えてしまう内在化された偏見や差別により、自己実現や

社会参加を制限し、自らスティグマを形成させ、自己効力感の欠如やコミュニケーションを困難にし、社会的に孤立した状態となっている。その原因は、多様性と共感に対する考え方が表面的であり、実質的な包摂が不足していることである。真の多様性と共感とは、単に外見や文化的な違いだけでなく、個人の思考、信念、経験、価値観、および生活スタイルを含み、人々が異なる背景や視点を持ち、それぞれ独自の方法で世界を理解し、行動することである。また、社会や組織が様々なバックグラウンドを持つ人々の声を聞き、それに応じて行動することで、包括的で公正な社会や職場が実現し、個々のグループがより良い関係を築くことができる。つまり、異なる考え方や経験を尊重し、受け入れることで、マイノリティはスティグマから解放され、より豊かで充実した人間関係を築き、多様性と共感によって経済社会の発展に貢献できる。

多様性と共感を実現するためには、マイノリティの視点に立ち、彼らのニーズや要望を理解し、それらに応えることが必要である。そのためには、ナッジという手法が有効であると考えられる。ナッジとは、微細な修正を加えることで望ましい選択を促す方法である。例えば、簡単に取れる選択を望ましいものに向かわせる「デフォルト・オプション」の設定や、行動のしやすさを向上する「助走(ランプ)」の提供により、行動変容を促進することができる。また、ナッジを効果的に活用するためには、スティグマの存在により、ナッジを拒否する可能性があるため、社会の側がスティグマの定義を共有し、スティグマ解消に繋がる支援を提供する必要がある。さらに、マイノリティは、スティグマに関する行動を取ることに對し否定的な自己認識を持つ傾向があり、ナッジの効果を妨げる可能性があるため、スティグマ感情を軽減させるためのアプローチが重要となる。そして、スティグマを抱える人々に対して、社会参加を可能にするナッジの効果を最大化させるために、五感を鮮明にする教育が自己肯定感(自分自身をどれだけ尊重し、受け入れるか)や自己受容(自分自身を肯定し、受け入れるか)を高め、スティグマに対する抵抗力を養うのに役立ち、自己の内面的な力が強化され、社会的な障壁を乗り越え、自己実現を促進するための重要な手段となる。

この問題に対処するためには、まずアプローチの実践に伴う課題を明らかにすることが極めて重要である。また、これまでマイノリティのソーシャルスタイルや生活の質(QOL)に関する質的研究(量的研究では得られない、人間の内面や複雑なプロセスを理解でき、社会的現象を豊かに理解できることから現実世界の課題に対する有効な手法である)が少ないことから、経済活動を促進するアプローチの実践を進展させ、マイノリティがスティグマを形成させた経済的・社会的背景を考察し、マイノリティのスティグマ解消に繋がるアプローチによる潜在能力を再発見し、新たな労働力の価値として認識することが重要である。さらに、幅広く多様な先行研究を選択的に活用し、その進展を実証するためのナッジ理論を活用したケーススタディが必要である。そして、スティグマを抱え孤独に陥らないための効果を最大化させる五感を鮮明にする教育について検討することで、五感を鮮明にする教育がナッジの効果を高めることを示し、多様性と共感に基づく経済社会の実現が可能となる。

したがって本稿では、マイノリティの社会参加を可能にする社会の課題を提示し、経済的・社会的価値のバランスを重視した利他的行動の効果について議論する。また、マイノリティの内在化された壁であるスティグマに焦点を当て、マイノリティの社会参加を促進するケーススタディを検証し、ナッジ理論の適用による影響を検証する。これにより、マイノリティの状況を改善し、アウトカム向上に貢献する手段を示す。さらに、マイノリティがスティグマを抱え孤立しないための五感を鮮明にするナッジの効果を最大化する教育の重要性について検討する。本稿でマイノリティの対象を障がい児や引きこもりの人々に絞ることで、全ての人々の社会参加を促進するナッジの効果がより期待される。そして、マイノリティの多様性を認め、彼らが自らのアイデンティティを尊重しながら経済活動に参加できるデジタル経済圏の可能性について検討し、デジタル経済圏が多様な人々の受け皿となり、新たな経済的価値、社会的価値、個人的価値を提供し、全ての人々のQOLを向上させ、「自分らしく活躍できる環境」を実現し、新たな共感に貢献する富と徳の交換が可能な経済社会の実現を目指す。

本稿研究による貢献は、マイノリティ(本稿においては、スティグマを抱える障がい児と引き

こもりの人を対象とする)の社会参加が社会や経済に与える影響に関する実証的な証拠を提供し、マイノリティの社会参加に影響を与える要因やメカニズムを理論的に解明することにより、マイノリティの社会参加を促進する介入プログラムや戦略を開発する際に役立つ。さらに、効果的な支援サービスや教育プログラムの設計、地域社会の組織化に活用されることが期待できる。これにより、社会全体の意識が高まり、マイノリティの雇用機会の拡大、教育へのアクセスが改善され、差別や偏見、排除が撤廃されることで、多様性と共感による包括的な経済社会の構築が可能となる。結果として、マイノリティが創造性を発揮できる分野に光を当てる機会が増え、その光は周辺を照らし、社会全体をより明るくすることが期待できる。そして、マイノリティの創造性が新たな分野に価値を見出し、我々の経済社会は未活用であった資源を活性化させ、様々なイノベーションをもたらす源泉の労働力としての価値を再発見し、多様なサービスや新たな消費を促進し、生活の質を向上させることに貢献できる。さらに、多様性や共感が原動力となり、新たな富と徳の交換による潜在的な需要が開拓され、市場全体の拡大が期待できる。このようなスティグマ解消に繋がるナッジ理論の活用の研究が、社会全体の変革に有効であることを示すことで、様々な人々の行動変容の動機づけとなる。